

計画事業に係る事後評価項目記載要領(初年度・2年度目)

I 総合評価

地域の主体的な取組みと創意工夫による公共交通の活性化・再生を通じ、個性豊かで活力に満ちた地域社会実現に寄与するために適切な事業を選び出し、当該事業を本格実施する環境を整備するための検討を行ったか。

法定協議会を適切に開催し地域利用者の意見を反映させながら、粟生線の利用促進と地域を活性化するための適切な事業を選び出し、初年度事業の成果を踏まえ、効果的なものから順次、計画的に実施を進めた。
各事業の実施状況や効果を踏まえ、改善を図りながら来年度の事業に繋げていく。

II 計画事業の実施

① 事業計画に位置づけられた事業が適切に実施されたか。事業計画に位置づけられた事業が事業計画どおりに実施されなかった場合には、適切な理由等が明らかにされているか。

事業計画は、①鉄道の活性化・再生に係る事業、②公共交通利用促進に資する事業に大別される。
2年度目の事業としては、特に沿線の住民・学校・事業所・自治体職員等に対するモビリティ・マネジメントを重点的に実施し、持続的な鉄道利用が地域に定着するような取り組みに努めたほか、初年度に実施した定期外旅客の利用促進に資する事業についても内容の充実を図った。さらに駅へのアクセスを改善して潜在需要の掘り起こしを図るため、駅前パーク&ライド駐車場の整備拡大も実施し、当初目標20万人に対して、**約15.5万人**(3月末時点での予想値)の取り組み効果があったと推定される。なお、用地確保の調整等のためパーク&ライド駐車場整備が11月以降になったこと、また、住民に対するTFPIの開始時期が11月になったことなどから、効果の発現が遅れたことを勘案すれば、概ね当初事業計画通りに実施できたと考える。(※昨年度取り組み効果は6.2万人)

パーク&ライド駐車場については、来年度以降は通年で効果の発現が期待されるほか、2年間にわたる地域参画型を意識した一連の利用啓発活動については、定量的な効果計測は困難ではあるが、三木市民による存続要望の署名活動や、沿線高校における各種の自発的な活動など、目に見える形での動きに繋がってきており、さらに今後の鉄道利用行動拡大に結び付けていく下地作りには少なからず成果が現れている。

【主な取り組み効果】※23年度末予想

- 1) シニアパス等の発売による効果・**12.4万人**
シニアパスの発売:11.5万人、各種企画乗車券の発売(企画乗車券自動販売機による発売を含む):0.9万人
- 2) パーク&ライド時間貸し駐車場の整備による効果・**0.5万人**
- 3) 各種スタンプラリーによる効果・**1.1万人**
- 4) 沿線住民に対するモビリティ・マネジメント等・**1.2万人**
TFPIによる沿線住民の利用促進効果:0.7万人、三木市・小野市職員による通勤定期への転換など:0.5万人
5. その他・**0.3万人**
鉄道関連イベント開催による効果(沿線イベントとの連携効果含む):0.2万人、郊外学習体験による効果:0.1万人

(実施済み及び実施中の事業)

1. 企画きっぷの充実と効果的なPR活動

・新規の定期外利用者誘致を図るため、70歳以上の高齢者を対象とした割引乗車券(シニアパス)を初年度に引き続き発売した。【4月～】今年度より発売分のシニアパスは、有効期間を4ヵ月に延長したほか、パス提示により割引引きで買物等が出来る優待施設も拡大させ、さらに使いやすく利用できるパスとした。その結果、発売数は月当たり2倍以上に増加し、高齢者の固定的な利用に繋がった。

○シニアパス発売枚数(平成23年4～12月)2,152枚、※前年度発売枚数(平成22年10月～平成23年3月)734枚

○粟生線関連各種企画乗車券(平成23年4～12月)7,006枚

2. 利用しやすい駅・快適な駅づくり

・駅業務の合理化により無人駅が大半であり(18駅中、17駅)、また、駅売店は1店舗しかなく、利用促進のための各種企画乗車券の購入が限定的であった。このため、購入機会の創出による利用増を図るため、初年度に引き続き、企画乗車券自動販売機を栄駅、恵比須駅に設置した。【12月～】※初年度設置駅:緑が丘駅、三木駅、小野駅

・沿線イベントの開催内容など、沿線情報を適切なタイミングで効果的に発信するため、センター駅からの制御により粟生線各駅にて一斉放送できる設備を導入した。【平成24年1月～】

なお、告知ナレーションなどの音源や放送プログラムは、沿線の高校の制作協力を得て継続的に実施する。

・西鈴蘭台駅ホーム付近の法面に植栽を行い、待合い環境の改善を図った。【6月～】

3. パーク&ライド促進

・電車利用の潜在的な需要の掘り起こしと駅勢圏の拡大による利用者増を図るため、初年度に実施した「小野駅」駅前に引き続き、「広野ゴルフ場前駅」駅前の駐輪場用地を活用して、パーク&ライド時間貸し駐車場(10台収容)の整備を行った。【11月～】

4. 接続バス情報の提供

・駅周辺のバス停留所の位置・路線図等の駅へのアクセスバス路線情報や、列車時刻表等の情報を記載した駅アクセスマップを、初年度にも制作した「おでかけガイド」の付録資料として編集し、新聞折り込み(約68,000戸)や社員による戸別配布により広く沿線に配布した。【7月】

5. 小・中学校校外学習利用促進

・学校団体の継続的な利用誘致と公共交通利用啓発を図るため、初年度に引き続き、粟生線の校外学習素材として神戸市域の小学校を対象とした粟生駅周辺での農業体験校外学習(田植え、稲刈り)【6月・10月】や、三木山森林公園での自然体験学習プランを企画・実施した。【6月、7月、10月】

6. 沿線イベントへの公共交通利用促進

・粟生線沿線の集客イベント(三木金物まつり、小野市産業フェスティバル等)を中心に、協議会だより等の配布によるPR、「しんちゃん・てつくん」キャラクター着ぐるみや新たに製作したミニトレインの活用による沿線催事への誘致を行い、年間を通じて継続的に利用促進PRを実施した。

【10月】神鉄トレインフェスティバル、北播磨中央公園イベント、小野市産業振興フェスティバル、三木南ふれあい交流イベント、ちよとて山1周年記念イベント

【11月】三木金物まつり、北神急行トレインフェスティバル、もりもりおもちゃ箱フェスタ2011、あわの里2周年記念イベント

【2月予定】神戸青少年科学館イベント

【3月予定】小野陣屋まつり、ラッピング列車お披露 試乗&撮影会

7. 沿線観光資源を活用した利用促進イベントや情報提供

・沿線スタンプラリーの実施

沿線の観光資源や歴史・文化、さらに地域物産の魅力を伝え、沿線内外からの観光利用者の増加を図るため、以下のスタンプラリーを企画・実施した。

○「グルメスタンプラリー」【7～9月】 夏休み期間中の利用者増加施策として、神戸電鉄全線1日フリーパスと沿線のグルメスポットで利用可能な割引券がセットになった「おもてなしきっぷ」を発売した。(発売数約4,000セット)駅近傍の飲食店舗と協力した地域参画型の利用促進事業として地域の活性化に繋がる企画であり、利用者と協力店舗の両者から非常に好評を頂いた。

○「ウォークdeスタンプ&クイズラリー」【10月～平成24年3月】 粟生線の駅を起点として、沿線ゆかりの史跡を巡りながら駅スタンプを集めて歴史クイズに答えるスタンプラリーを実施した。

・駅周辺の観光・ハイキング案内看板の設置(緑が丘駅)

駅周辺のアクセス施設(バス・駐車場・駐輪場など)や沿線名所・ハイキングコース、バスルート等を表示した自立式案内看板を設置した。

8. 沿線の景観・名所づくり

・周辺地域からの旅客誘致を図るため、葉多駅周辺に菜の花の植栽を行った。【6月】

9. 鉄道関連イベントの開催

・秋季に恒例開催している利用啓発イベント「神鉄トレインフェスティバル【10月】」や「ミステリートレイン【8月】」を実施し、域内外からの新規利用者の開拓と利用啓発を図った。

・鉄道イベント等において、効果的な旅客誘致や利用啓発を図るため、粟生線の魅力を描いたラッピング列車を3月末より運行する予定である。ラッピングデザインは、地域の大学との連携事業として学生よりデザインを募集(応募総数27作品)し、厳選3作品の中から一般投票により最終デザインを決定する方法により地域参画型の取り組みとして実施した。

10. 営業情報の提供

・粟生線の現状や協議会の活動状況のほか、スタンプラリーと連動した沿線のグルメスポットや企画切符などの旅客誘致情報、さらに、「粟生線利用促進マップ」を付録にした「粟生線おでかけガイド」を制作し、社員による沿線への戸別配布(約10,000戸)や新聞折り込み(約68,000戸)を実施した【8月】

また、ウェブサイト上の協議会HPは、協議会報告・事業活動の状況・イベント情報等の最新ニュースをより分かりやすくレイアウトしてリニューアルし、域内外に対してリアルタイムでの情報発信と新規旅客誘致を図った。

・協議会の活動や沿線高校で自主的に取り組まれている利用啓発活動状況、校外学習体験等に参画した小学生からの応援メッセージなどを掲載した「協議会だより」(チラシ・ポスター)を夏・秋・冬期毎に制作し、社員・自治体職員による駅頭一斉配布や沿線自治会等への配布により、沿線や利用者に対してタイムリーな情報発信を行った。(付属資料:粟生線活性化協議会だより・秋号を参照)

(配布数)夏号:駅頭一斉配布:約5,600枚

秋号:駅頭一斉配布:約6,700枚、新聞折り込みによる配布:54,000枚、沿線自治会等への配布:約1,000枚

冬号:駅頭一斉配布:約6,700枚、沿線自治会等への配布:約3,000枚

11. 沿線住民等へのモビリティ・マネジメント、キャラクターを活用した公共交通利用啓発PR、沿線自治体職員等による公共交通利用率先行動

・沿線住民向けTFPの実施【9月～】

沿線住民を対象に、公共交通利用の重要性の意識付けと、コミュニケーションアンケートを通じたTFPを実施し、マイカーから鉄道への自発的な交通行動変容を促す取り組みを実施した。

また、活性化に向けた沿線高校の自主的な取り組み事業の報告や、学識経験者や地域住民等によるパネルディスカッションを含むシンポジウムを開催し、地域住民のマイレール意識の醸成と自発的な鉄道利用を促す。【平成24年2月開催予定】

年度内に沿線事業所に対しても公共交通利用を考えるアンケートを実施する予定。

・利用啓発ポスターの制作・掲出【9月～】

モビリティ・マネジメント事業と併行して、利用者の更なる乗車を働きかけるために、沿線住民へのメッセージと企画乗車券情報の案内ポスターを作成し、車内吊りや駅での掲出を行った。（付属資料：利用啓発メッセージポスター縮小版参照）

・キャラクターを利用した利用啓発PR【4月～】

沿線各地での地域イベント等において、粟生線活性化キャラクター「しんちゃん・てつくん」の着ぐるみやミニトレインを活用して、「粟生線活性化協議会だより」やティッシュ等の利用啓発グッズの配布を行うなど、広く沿線住民に活性化への取り組みに対する理解と協力を呼び掛けた。（参加イベントは前述の「沿線イベントへの公共交通利用促進」を参照）

・自治体職員による粟生線利用率先行動【4月～】

沿線地域住民が参加する自治会の集まりや、沿線企業等に対して粟生線の現状説明や利用促進の呼びかけを実施した。その結果、自治会内での利用促進に関する広報物の回覧や、地域住民主体の粟生線利用に関するアンケート調査の実施、住民主体の応援組織の発足など、利用促進に対する機運が高まりつつある。

また、小学校の校外学習時に公共交通利用の重要性を啓発するモビリティ・マネジメント学習等を実施した。さらに、沿線自治体の職員に対しても出勤や出張時、または休日利用の促進を図るため、職員への呼びかけを継続して実施するとともに、沿線で職員対象の催しを実施した。

12. 利用者参加による公共交通利用啓発活動

・七夕列車、クリスマス列車の特別運行

粟生線活性化キャラクター「しんちゃん・てつくん」のキャラクター列車を使用して「七夕列車【7月】」「クリスマス列車【12月】」を特別運行するとともに、併せて、協議会だより、シール、ティッシュ等の利用啓発グッズの配布、キャラクター着ぐるみ「しんちゃん・てつくん」の活用等により、沿線住民等の粟生線活性化への理解と利用啓発を訴えかけた。

（実施予定の事業）

1. キャラクターシートの導入

・快適な車内環境の提供とマイレール意識の醸成を図るため、粟生線活性化キャラクター「しんちゃん・てつくん」と沿線各市のシンボル花をモチーフにしたキャラクターシートを、粟生線で運用頻度の高い車両に導入する。

2. 駅前パーク&ライド時間貸し駐車場の整備・創設

・電車利用の潜在的な需要の掘り起こしと駅勢圏の拡大による利用者増を図るため、押部谷駅（8台収容）、三木駅（20台収容）にパーク&ライド時間貸し駐車場を整備する。また、初年度に小野駅前で整備したパーク&ライド駐車場の利用状況から、さらなる利用が期待できるとして、新たに時間貸し駐車場（8台収容）を増設する。

3. 「粟生線～三宮」平日昼間・土休日お得きっぷ（仮称）」の発売

・TFPによるアンケート調査や協議会での意見を踏まえ、粟生線利用が少ない平日の昼間（午前10:00～午後16:00）及び土休日に使用できる格安の企画乗車券を発売し、潜在的な需要を喚起して新規の利用者増を図る。

4. 駅広告看板の活用による利用啓発

・地域参画型の活動として、沿線高校等が粟生線への応援メッセージや、利用啓発を促す絵画をデザインし、それを駅構内にある広告看板枠に掲出することにより、地域と一体となった駅の利用環境改善とマイレール意識の醸成を図る。

5. 駅前駐輪場の改修

・神戸複合産業団地の最寄り駅である木津駅において、通勤利用者等からのニーズが高い駐輪場屋根などを改修することにより、利用者の利便性向上を図る。

6. 沿線の植樹・植栽による景観向上（木津周辺）

・フラワーライン計画の一環として車窓から見通しのよい沿線法面に桜の植樹等を行い、景観向上を図る。

Ⅲ 具体的成果

- ① 定められた評価方法・評価基準にしたがって、評価事項について事業を評価したか。
その際、事業の効果・影響とそれ以外の効果・影響を分離して評価したか。

1. 企画きつぷの充実と効果的なPR活動

・シニアパスによる利用増の効果は、販売時の簡易アンケートにより販売前の移動手段等を調査結果を勘案し、販売枚数に基づいて推定した。
・沿線の直営スーパーにおける定期利用者割引サービスの効果は、同店舗の対前年同月の一人当たり顧客単価比較等により推定した。

2. パーク&ライド促進

・鉄道利用増の効果は、駐車場時間貸し利用者に鉄道利用サービス券を配布し実数測定した。

3. 小・中学校校外学習利用促進

・校外学習参加者数を実数計測し、利用増を測定した。

4. 沿線観光資源を活用した利用促進イベントや情報提供

・「おもてなしきつぷ」による利用増の効果は、発売枚数及び店舗での割引クーポン利用数を勘案して推定した。
・「ウォークdeスタンプ&クイズラリー」による利用増の効果は、設定コース走破毎の記念品の配布数により推定した。

5. 鉄道関連イベントの開催

・イベント開催時に参加者、来場者の実数計測及びアンケート調査により、利用増の効果を推定した。
また、各イベント開催時や特別列車運行時におけるHP閲覧アクセス数を測定し、PR効果を確認した。

6. 営業情報の提供

・「粟生線おでかけガイド」に添付したクーポン券利用数を実測し、利用増の効果を推定した。

- ② 実施した事業が地域公共交通に関する目標を達成するために適切な事業であるかどうかを検証したか。

1. 企画きつぷの充実と効果的なPR活動

・シニアパスの販売枚数について、発売期を重ねる毎に顕著に発売数が増加しており、前年度実績との比較では2倍以上の発売数となっている。ロコミを含むPRが浸透し、高齢者の鉄道利用の囲い込み及び利用促進に繋がっていると評価している。

なお、直営スーパー提携の定期券利用割引サービスの効果については、景気低迷による顧客単価の減少から顕著な利用増効果は認められないが、一人当たりの顧客単価の推移を把握しながら当面は継続的に実施していく予定である。

2. パーク&ライド促進

・「小野駅」駅前パーク&ライド駐車場(10台収容)において、前年度のオープン直後の電車利用での駐車回数は、1日平均5台程度であったが、PR効果により順調に利用が進み、現在では1日当たり10台程度まで利用が増加し、時間帯によっては満車状態となっている。このため、さらに潜在的な需要も見込んで、隣接地に増設を行う予定である。【24年3月～】

3. 小・中学校校外学習利用促進

・農業体験校外学習は神戸市域の小学校3校より延355人の参加があり、地域住民にボランティアとして作業支援して頂く地域参画型事業として好評を得た。

モビリティ・マネジメントや地域における連携意識の醸成の点から、利用啓発教材の充実化による教育プログラムの充実化を図り、次年度以降も継続的に実施する予定である。

4. 沿線観光資源を活用した利用促進イベントや情報提供

・「おもてなしきつぷ」による効果は、飲食店でのクーポン券利用数から約2,500人と推定される。
・「ウォークdeスタンプ&クイズラリー」による利用増の効果は、約7,900人(平成24年3月時点)と推定される。

5. 鉄道関連イベントの開催

・鉄道関連イベントの一つである「神鉄トレインフェスティバル」では、今年度、チラシ配布やポスター掲出エリアの拡大や各種媒体を通じたPRの強化を図った結果、初年度を大きく上回る来場者(対前年比58%増)があった。沿線の高校・大学による催物への参画、また、沿線飲食店の出店協力を得るなど、地域参加型イベントとしての意識醸成が進んでいると評価されるほか、大幅な来場者数の増加から粟生線利用促進にも大きく寄与したものと思われる。

○神鉄トレインフェスティバル

来場者数:2,903人(内、粟生線利用者 約1,100人) ※初年度来場者数1,835人(内、粟生線利用者約800人)

○ミステリートレイン

参加者119名、32組(応募者150組、566名) ※初年度来場者数 121名、38組(応募者146組、523名)

6. 営業情報の提供

・7月に発行した「粟生線おでかけガイド」に添付した沿線飲食店でのクーポン利用数は、4,090枚であった。沿線協力店舗からは次年度以降の継続的な参加を希望する声も多く、協議会活動の認知度向上とともに地域の活性化及び実際の電車利用の促進につながったと考える。

翌年度においては、協力店舗を拡大し、継続的に地域の活性化と利用促進を図る予定である。

IV 自立性・持続性
1 事業の本格実施に向けての準備
① 実施した事業を翌年度実施するにあたって問題点があるかどうかを検証したか。
実施した事業について、利用促進の効果は概ね期待どおりの効果が得られており、また、個々のイベント事業で実施したアンケート調査結果から、粟生線の現状認識や協議会活動の認知度は着実に向上している。 また、「おもてなしきっぷ」の発売が非常に好評であったこと、TFP実施に伴うコミュニケーションアンケート等の調査結果や沿線自治会の自主的なアンケート調査結果より、以下の点が課題として挙げられる。 ●平日昼間時間帯及び土休日の定期外利用において潜在的な需要が見込まれることから、今後、継続的に利用促進を呼び掛けるモ ●ビリティ・マネジメントにおいて、これらのニーズに応える運賃施策の実施を図るための効果検証(平日昼間や土休日における割引乗車券の試験導入など) ●沿線住民による自主的に継続的な利用促進を行うための組織化(サポーターズクラブの設立支援やワークショップの開催など)
② 実施した事業について利用者数が想定をかなり下回るなど効果が現れていない場合には、翌年度事業を実施するにあたって必要な見直しを行っているか。翌年度も同じ事業を実施する場合には、適切な理由等が明らかにされているか。
利用促進に資する事業については、効率的なPRの実施によるPR経費の低減や沿線地域との連携による効率的な事業運営により費用対効果の改善を図り、概ね期待どおりの取り組み効果があった。また、事業の企画において、鉄道イベントについては、グルメスタンプラリーで協力を得た飲食店の出店や自主的な活性化活動を展開している沿線高校のイベント運営参加、また、車両ラッピングデザイン制作における沿線大学との連携など、継続的に地域と連携・協働して、継続的に事業推進できる環境整備を行った。次年度においては、これらの体制や本年度に整備した放送設備等を有効に活用し、より地域と連携し一体となって利用促進・利用啓発事業を推進する。
2 事業の実施環境
① 当該事業の翌年度実施のための財源について検討を行い、財源の目処がついたか。
翌年度の事業実施にあたっては、沿線自治体からの財政支出によることで合意形成されており、各自治体の議会において予算承認を得る予定である。
② 住民等による自主的な利用促進、啓発等の活動や協賛金拠出への協力等当該事業を翌年度実施する環境を整備しているか。
沿線自治会単位での利用啓発活動や地域住民による自主的な活動が年間を通して以下のとおり行われ、粟生線存続と利用促進への気運の向上が確実に図られている。 ●「粟生線活性化協議会だより」の駅頭配布や自治会内での回覧の定着 など ●「自治会独自の利用促進に向けたアンケート調査の実施や粟生線存続に向けた署名活動 ●利用促進や利用啓発に資する沿線住民による自主的な組織の設立など また、沿線の高校(小野高校・三木東高校)では、粟生線活性化・利用促進をテーマにした放送作品の制作(NHK全国高校放送コンテスト準優勝を受賞)や課題研究・プレゼンテーション、アンテナショップなどの自主的な利用啓発活動が実施されたほか、以下のとおり、年間を通して沿線の住民・学校・団体等から多大な協力・支援を得ながら協働して事業を展開し、利用促進事業の継続的な環境整備と沿線住民の意識醸成が図られている。 ●駅広告看板枠の活用における板面デザインの製作(小野高校、三木東高校、神戸鈴蘭台高校、兵庫商業高校) ●駅一斉放送設備活用におけるナレーション等制作(小野高校) ●ラッピング列車のラッピングデザインの制作(神戸芸術工科大学) ●神鉄トレインフェスティバル、ラッピング列車お披露目式での催物参画(三木東高校、神戸芸術工科大学など) ●農業体験実習への参加(沿線小学校:3校)及び地域住民のボランティアによる作業支援 ●七夕列車及びクリスマス列車イベントでの駅・列車の装飾(沿線幼稚園・保育園児及び父兄による装飾参加) など
③ 当該事業の本格実施のための財源について検討を行ったか。
各事業の実施により期待した利用増が喚起されていることから、事業の継続が期待されている。地域との連携や協働を深度化させて、さらに自立性と持続性のある事業となるように傾注しながら事業経費の抑制について検討するとともに、沿線自治体と交通事業者の費用負担や役割について議論しているところである。

V 住民の参加等による地域関係者の実質的な合意形成

- ① 協議会における審議事項が明確に定められ、計画事業の進め方、実施状況について審議される体制となっているか。

法定協議会の運営要領において、連携計画の策定、計画事業の進め方、実施状況、自己評価等に関して協議することとなっている。また、事業実施の詳細等については、検討会を設置し検討できるとされており、関係者間において合意されている。

- ② 協議会に住民が参加したり、住民の意見が反映される仕組みが設けられているか（公募制、住民意向調査等の実施が協議会の運営要領において定められているか。

法定協議会の構成員には沿線住民の代表として各市の自治会長等（6名）が含まれている。また、事業の実施状況については、法定協議会（今年度は4回開催）で説明し、住民等の意見が事業に反映される仕組みが設けられている。

- ③ 計画事業を実施するにあたって協議会が適切に開催されているか。

第1回協議会において協議会の審議事項等を定めた協議会規約を制定したほか、事業の進め方や内容の変更等について審議するため適宜協議会を開催（今年度は7月、10月、1月、3月に開催）するなど、事業を実施するにあたって法定協議会が適切に開催されている。

- ④ 協議会の議事が傍聴、議事録や関係資料の公開等によって適切に開示されているか。

法定協議会の運営要領において、議事の傍聴は可能であること、審議内容、議事録等はウェブサイト上のHPにおいて協議会開催後速やかに公表することが規定されており、当該規定に則って、協議会の議事が開示されている。

- ⑤ 地域公共交通に関する目標を達成するために適切な事業を翌年度実施することについて地域関係者の実質的な合意が形成されたといえるか。

法定協議会において、事業の進め方、実施状況、費用負担、事業継続の必要性等について、報告・審議され、関係者の合意形成が行われている。また、法定協議会の構成員以外の者からの反対の声もなく、粟生線利用促進及び沿線の活性化を達成するための事業については、地域関係者の実質的な合意は形成されたといえる。

【基本的な方針】

地域に親しまれ、地域とともに歩む、
持続的・安定的な路線維持と活性化の実現

【区域】

神戸電鉄粟生線沿線地域
(神戸市・三木市・小野市)

【計画期間】

平成22年度
～平成24年度

【事業・実施主体】

【目標】

○ 輸送人員の減少に歯止めをかけ、
平成24年度には平成20年度並みの
年間輸送人員730万人の確保を目指
す。(今年度利用促進目標:20万人)

●輸送サービス改善

企画切符、割引制度、駅PR放
送設備や車両座席の改良(キャ
ラクターシートの導入)等

●駅アクセスの改善と
駅の活性化

駐車場の整備、駐輪場の改良、
バスとの効果的な接続等

●定期利用者の増加と
新規利用者の開拓

小中学校への利用促進、地域・鉄道イ
ベントによる利用促進・利用啓発等

●公共交通利用意識の向上

モビリティマネジメント(沿線住
民に対するTFPの実施)等

●安定した鉄道輸送サービス
の確保

利用者モニター制度の実施

●沿線住民と一体となった
協力体制の構築

神鉄サポーターズクラブの設置等

平成23年度事業計画概要

事業概要	実行主体	評価事項
企画きっぷの充実と効果的なPR活動	神戸電鉄(株)、神戸市、三木市、小野市	高齢者層の利用掘り起こしと囲い込み
利用しやすい駅・快適な駅づくり	神戸電鉄(株)、神戸市、三木市、小野市	企画乗車券の販売促進と粟生線の利用啓発
パーク&ライド促進	神戸電鉄(株)、神戸市、三木市、小野市	駅勢圏拡大による新規利用拡大
バス接続情報の提供	神戸電鉄(株)、神戸市、三木市、小野市	新規利用の掘り起こしと粟生線の利用啓発
沿線観光資源を活用した利用促進イベントや情報提供	神戸電鉄(株)、神戸市、三木市、小野市	観光資源の周知による観光利用者の増加と鉄道利用啓発
営業情報の提供	神戸電鉄(株)、神戸市、三木市、小野市	協議会活動情報の提供による鉄道利用啓発と新規旅客誘致
沿線企業・学校・自治体・住民へのモビリティマネジメント	神戸電鉄(株)、神戸市、三木市、小野市、兵庫県	継続的な粟生線の利用啓発と利用促進
小・中学校校外学習利用促進	神戸電鉄(株)、神戸市、三木市、小野市	学校団体の継続的な利用誘致と鉄道利用啓発
沿線イベントへの公共交通利用促進	神戸電鉄(株)、神戸市、三木市、小野市	新規利用促進
沿線の景観・名所づくり	神戸電鉄(株)、神戸市、三木市、小野市	沿線内外からの新規利用者開拓と粟生線の利用啓発
鉄道関連イベントの開催	神戸電鉄(株)、神戸市、三木市、小野市	沿線内外からの新規利用者開拓と粟生線の利用啓発
利用者参加による公共交通利用啓発活動	神戸電鉄(株)、神戸市、三木市、小野市	継続的な利用誘致と鉄道利用啓発

平成23年度事業実施概要

検討の経緯

■23年7月1日：第9回協議会

- ・23年度事業計画及び実施状況について
- ・活動状況の沿線自治会・高校等への説明会等の実施状況

■23年10月4日：第10回協議会

- ・23年度事業の実施状況について
- ・沿線自治会・学校等への利用啓発活動の実施状況について
- ・24年度以降の取り組み方針について

■24年1月13日：第11回協議会

- ・23年度事業計画の実施状況について
- ・事後評価について
- ・24年度の取り組みについて

■24年3月19日：第12回協議会(予定)

- ・23年度事業全体の実施結果と総括について
- ・24年度事業計画について

12月までの事業実施状況

【事業・実施主体】

- 企画キップの充実・PR
・神鉄・高速シニアパス発売
70才以上利用者への割引
【4月～】
＜神鉄・神戸市・三木市・小野市＞
・定期利用者への直営スーパー6店舗で割引サービス実施
【4月～】
1000円購買毎に100円割引
＜神鉄＞

- 利用しやすい駅・
快適な駅づくり
・企画乗車券自動販売機の増設(栄、恵比須)【12月～】
購入機会の創出のため、初年度に引き続き、無人駅に増設
＜神鉄・神戸市・三木市・小野市＞

- 利用しやすい駅・
快適な駅づくり
・駅PR放送設備の改良
粟生線各駅から沿線イベント情報等を一斉放送できる設備を導入【24年1月～】
＜神鉄・神戸市・三木市・小野市＞

- 利用しやすい駅・
快適な駅づくり
・1100系(3両×4編成)及び5000系(4両×1編成)に粟生線キャラクター「しんちゃん・てつくん」と沿線市のシンボル花をモチーフにしたキャラクターシートの導入
【24年3月～予定】
＜神鉄・神戸市・三木市・小野市＞

【実施結果・成果等】

- ・シニアパス発売実績
4～12月 2,152枚
※昨年度実績
(22/10～23/3)
734枚


- ・粟生線関連企画乗車券の発売実績
(粟生線発売のみ)
4～12月 7,006枚


- ・沿線イベントの開催告知など適切なタイミングで効果的な情報発信が可能になった。


- ・快適な車内環境の提供とマイレール意識の醸成を図る。

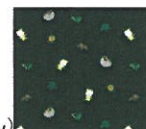
内装イメージ

【評価・今後の方針等】

- ・認知度向上とともに昨年度比で月当たり2倍以上に発売が増加し、確実に高齢者の固定的な利用と囲い込みに繋がっている。
- ・バス提示により割引等の特典が受けられる沿線施設の増加を検討し、さらに利用しやすいパスとして継続的な実施を検討。

- ・昨年度設置した3駅(緑が丘、三木、小野駅)における販売が好調で、昨年度に比べて着実に発売数が増加しており、利用増に寄与した。
- ・地域のニーズと需要を勘案して増設を検討。

- ・告知アナウンスは沿線の高校(小野高校)の協力を制作を行う予定であり、地域参加型の取り組みとして年間を通して継続的に実施。


- ・キャラクターの認知度も向上しており、イベント列車で有効に活用して継続的な利用啓発PRを実施。

神戸市(あじさい)
三木市(さつき)
小野市(ひまわり)
神戸電鉄(すずらん)

平成23年度事業実施概要

1 2月までの事業実施状況

【事業・実施主体】

- 時間貸しP&R駐車場整備
 - ・「広野ゴルフ場前駅」駅前に新規開設(10台)【11月～】
 - ・「三木駅」駅前(20台)及び「押部谷駅」駅前(8台)に新規開設予定【各24年3月～】
 - ・「小野駅」駅前(8台)に増設予定【8台:3月～】
- <神鉄・神戸市・三木市・小野市>

- バス接続情報の提供
 - ・バスアクセスマップ制作・配布
 - 「おでかけガイド」の付録資料として沿線に配布【7月】
- <神鉄・神戸市・三木市・小野市>

- 沿線観光資源を活用した利用促進イベントや情報提供
 - ・スタンプラリーの実施(夏・秋)【7～9月】【10月～24年3月】
 - 沿線の観光資源や歴史・文化、さらに地域物産の魅力を伝えるスタンプラリーを企画・実施。
 - ・駅周辺の観光・ハイキング案内看板の設置(緑が丘)【12月】
 - 駅周辺のアクセス施設(バス・駐車場・駐輪場など)や沿線名所・ハイキングコース、バスルート等を表示した自立式案内看板を設置
- <神鉄・神戸市・三木市・小野市>

- 営業情報の提供
 - ・おでかけガイドの制作・配布【7月】
 - 粟生線の現状、協議会の活動状況、沿線のグルメスポット、「粟生線利用促進マップ」等を掲載した沿線情報誌を制作・配布
 - ・「粟生線活性化協議会だより」の制作・配布
 - 協議会の活動状況をリアルタイムに発信するチラシを制作・配布
- (夏・秋・冬・春号)【7月・9月・12月・3月予定】
<神鉄・神戸市・三木市・小野市>

【実施結果・成果等】

- ・駐車場利用者数
- ・「広野ゴルフ場前駅」
- 1日平均3台利用



- ・配布数
- 新聞折り込み 約68,000戸
- 戸別配布 約10,000戸
- ※WEB上で閲覧できるように協議会HP上に掲載。



- ・夏期スタンプラリー「グルメスタンプラリー」
- 利用者数(推定) 約2,500人
- ・秋期スタンプラリー「ウォークdeスタンプ&クイズラリー」
- 利用者数(推定) 約3,600人



- ・「おでかけガイド」配布数
- 新聞折り込み 約68,000戸、戸別配布 約10,000戸
- ・「粟生線活性化協議会だより」
- (駅頭一斉配布数)
- 夏号:約5,600枚、秋号:約6,700枚、冬号:6,700枚(新聞折り込み)
- 秋号:54,000戸
- (沿線自治会内での配布)
- 秋号:約1,000枚、冬号:約3,000枚



【評価・今後の方針等】

- ・「広野ゴルフ場前駅」については、開設後の認知度が低く、P&Rの強化を行い、今後の稼働率向上を目指す。
- ・昨年度整備した小野駅前のP&R駐車場は高い稼働率を維持しており、地域のニーズを踏まえその他にも適地が無いかが継続検討。

- ・配布後、協議会HPへのアクセスが大幅に向上し、新聞媒体の活用により、広域なPRを行うことで、潜在的な利用者層への利用啓発が図られた。



- ・各シーズンを通して、参加者の利用は安定しており、リピート利用や新規の利用促進に一定の効果があつた。
- ・沿線の活性化や域外からの旅客誘致策において、リピート利用を期待できる有効な事業であり、リピート利用の囲い込みと新規利用増を図るため、コース設定等を工夫し継続的な実施を検討。

看板面デザイン



- ・粟生線の現状や協議会の活動を各イベントにてPRを行い、認知度の向上が図られた。
- ・粟生線沿線幼稚園・中学・高校や地元団体との連携イベントにより、活性化への参画意識醸成に寄与しており、効率化による運営経費の低減を図り継続を検討。



平成23年度事業実施概要

12月までの事業実施状況

【事業・実施主体】

- 沿線企業、学校、自治体、住民へのモビリティマネジメント
 - ・沿線住民向けTFPの実施【9月～】
 - ・粟生線活性化シンポジウムの開催【平成24年2月予定】
- 学識経験者や地域住民等によるパネルディスカッション形式のシンポジウムを開催

<神鉄・神戸市・三木市・小野市・兵庫県>



- 小・中学校校外学習利用促進
- ・粟生駅周辺での小学生農業体験学習の実施 田植え、稲刈り、芋掘り等【6・10月】
- ・三木山森林公園環境体験学習【6・7・10月】

<神鉄・神戸市・三木市・小野市>

- 沿線企業、学校、自治体、住民へのモビリティマネジメント
- ・利用啓発ポスターの掲出【9月～】
- TFPと併行して、利用者に対して更なる乗車を働きかけるために、メッセージポスターを作成・掲出

<神鉄・神戸市・三木市・小野市>

- 沿線イベントへの公共交通利用促進
- ・三木金物まつり、小野市産業フェスティバル等でのキャラクタ着ぐるみや新たに製作したミニトレインを活用による沿線催事への誘致やイベントを通して粟生線の利用啓発活動を実施。

<神鉄・神戸市・三木市・小野市>



【実施結果・成果等】

(沿線住民向けTFP)

- ・コミュニケーションアンケートの結果
- 沿線住民(1万世帯)に対して動機付け小冊子「粟生線がなくなる日!？」とコミュニケーションアンケートの戸別郵送を行い、2,878世帯・3,934名の方から回答。
- ・効果検証アンケートの結果
- 2,178世帯・2,751名の方に対して効果検証アンケートを実施。 ※詳細は集計中

(自治体内で職員の通勤利用の転換)【4月～】

- ・農業体験学習
- 神戸市域の小学校3校より延べ約360人の参加
- ・環境体験学習
- 神戸市域の小学校3校より延べ約180人の参加



- ・駅構内、車内吊りや沿線イベント等にて掲出した。



・参画イベント

4月～12月までの間で沿線16イベントに参加(参加イベント)小野市菜の花イベント、インフォラータこうべ2011、神戸市月が丘・桜ヶ丘自治会夏祭り、小野市産業振興フェスティバル、三木南ふれあい交流イベント、三木金物まつり 他



【評価・今後の方針等】

- ・効果検証アンケートの集計結果を精査し、粟生線利用の潜在的な需要層のニーズを捉えて、これらのニーズに応える運賃施策実施のための効果検証を速やかに実施。

- ・農業体験学習は地域住民に作業支援を得る地域連携型事業として好評で、参画意識の醸成を図るため、継続的に実施する。
- ・環境体験学習は、新しい取り組みであり、継続的な実施をする上で小学生向け利用啓発教材の充実化を図り、継続的な実施を検討。

- ・継続的な利用啓発の意識醸成を図るため、継続的に掲出を実施。



- ・粟生線キャラクター「しんちゃん・てつくん」の認知度は高く、沿線イベントで非常に好評を得ており、また、新たに製作したミニトレインも同様に好評であり、沿線イベントへの誘致PRに大きく寄与した。
- ・沿線イベントと連携を図り、継続的に利用啓発活動を推進していく。



平成23年度事業実施概要

12月までの事業実施状況

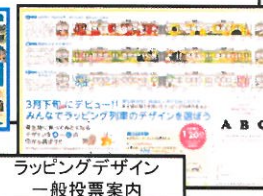
【事業・実施主体】

- 沿線の景観、名所づくり
- ・葉多駅周辺の菜の花畑植栽【12月】
- ・木津付近の桜植樹【24年3月予定】

<神鉄・神戸市・三木市・小野市>

- 鉄道関連イベントの開催
- ・神鉄トレインフェスティバルでの利用啓発イベント
- ・沿線高校・大学の催物参画、沿線飲食店の出店協力による利用啓発イベントの実施【10月】
- ・イベント列車の運行(ミステリートレインの運行)【8月】
- ・沿線の施設見学等を盛り込んだ家族向けの利用啓発イベント
- ・ラッピング列車装飾・お披露目式【平成24年3月予定】

<神鉄・神戸市・三木市・小野市>



ラッピングデザイン
一般投票案内

- 利用者参加による
- ・公共交通利用啓発活動
- ・駅の七夕列車の運行【7月】
- ・クリスマス列車の運行【12月】
- ・沿線の幼稚園児が作成したメッセージや絵画を列車内に掲出するとともに、車内での利用啓発学習を絡めたクリスマス会を実施。

<神鉄・神戸市・三木市・小野市>

【実施結果・成果等】

- ・菜の花畑植栽
- 小野市菜の花イベントにて、植栽の成果に併せて利用啓発活動を実施した。



- ・神鉄トレインフェスティバル
- 来場者数 2,903人(内、栗生線利用者数 約1,100人) ※昨年度来場者数1,835人
- ・ミステリートレイン
- 参加者数 119人(応募者数150組、566人)



- ・季節感あふれる駅・車内環境を提供するとともに、参加園児・保護者の方のマイレール意識の醸成を図った。



【評価・今後の方針等】

- ・沿線の話づくりと周辺地域からの旅客誘致を図った。
- ・沿線イベントとの連携を踏まえ、継続的な実施の是非を検討。

- ・栗生線の現状や協議会活動を各イベントにて情報発信し、認知度向上が図られたほか、沿線幼稚園・中学・高校生や沿線飲食店との連携により、活性化への参画意識の醸成に寄与した。
- ・沿線との連携を深めながら告知PR経費等の低減を図って継続的な実施を検討。



- ・実施内容を充実化させ、継続実施を検討。



上記のとおり、法定協議会を適切に開催し地域利用者の意見を反映させながら、栗生線の利用促進と地域を活性化するための適切な事業を選び出し、初年度事業の成果を踏まえ効果的なものから順次、計画的に実施を進めた。
各事業の実施状況や効果を踏まえ、改善を図りながら来年度の事業に繋げていく。